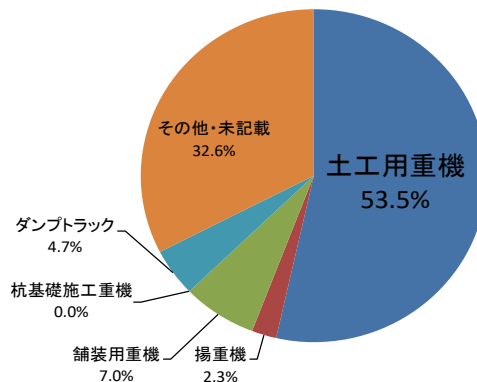


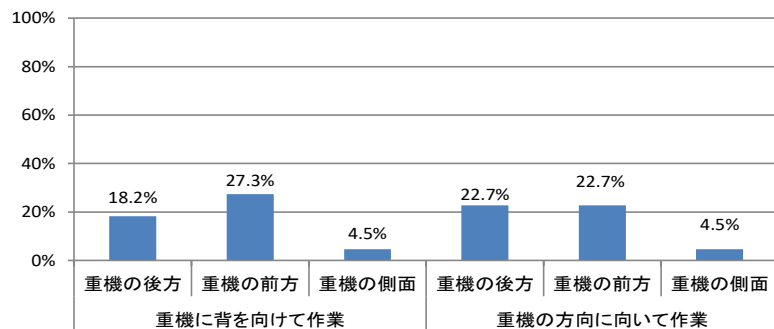
安全啓発リーフレット(令和3年度版)参考資料

重機事故のデータ分析(平成27～令和元年度SASデータより)

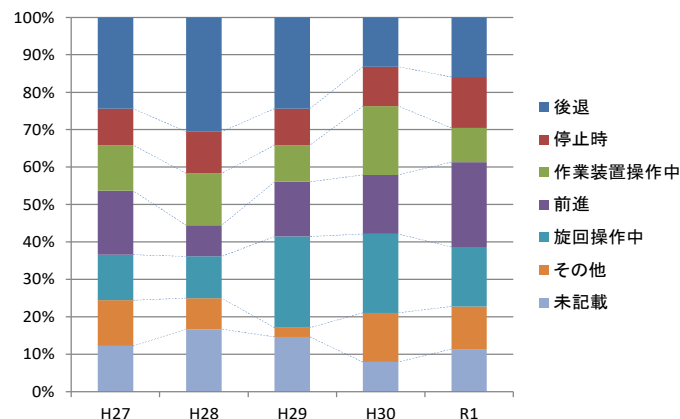
重機名称	事故件数 (件)	割合 (%)
土工用重機	23	53.5%
揚重機	1	2.3%
舗装用重機	3	7.0%
杭基礎施工重機	0	0.0%
ダンプトラック	2	4.7%
その他・未記載	14	32.6%
計	43	100.0%



重機の種類別事故発生状況(令和元年度)



被災者と重機の位置関係(平成27～平成元年度)



重機の動作状況別の事故件数の推移(平成27～平成元年度)

[重機事故の内訳]

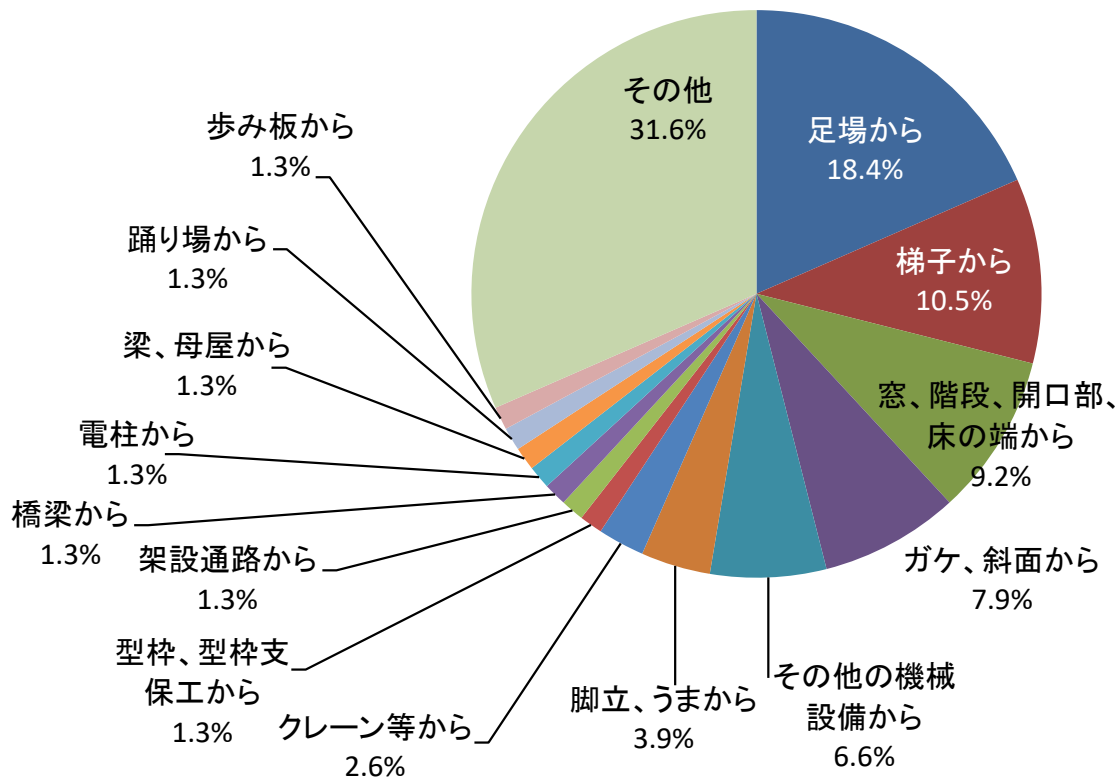
- **土木用重機(バックホウ等)と作業員の接触が53.5%**と最も多い(令和元年度)
- 被災者と重機の位置関係は、「重機の側面」よりは「重機の前方」と「重機の後方」での事故が多く、**合図・確認の不徹底、誤操作が原因**と思われる
- 重機の動作状況別の事故件数の推移において、「旋回操作中」の事故に比べて、「**前進**」や「**後進**」の**事故発生比率が大きく**、増加傾向にある。

[重機事故の対策]

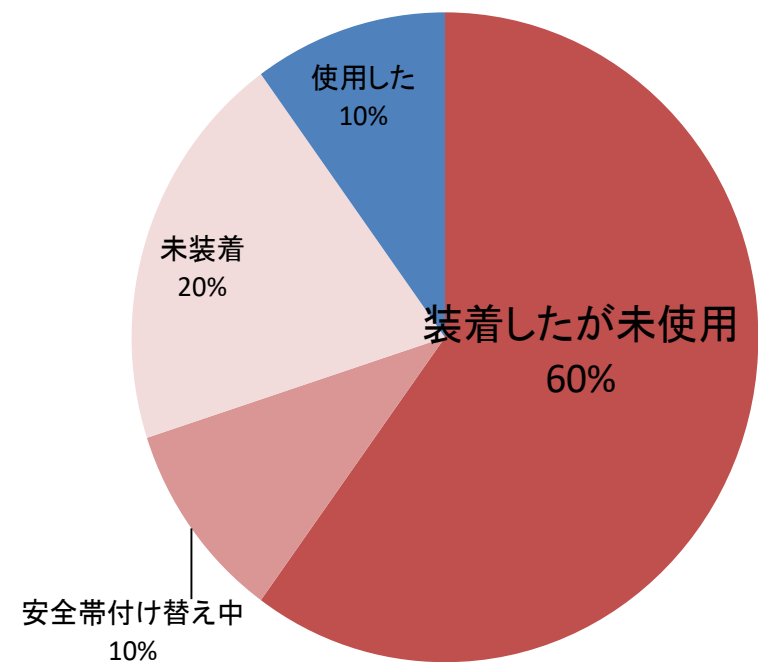
- 重機事故に対しては、「バックホウ」作業の対策を重点的に行う必要がある
- 「**安全の見える・聞こえる化**」の推進として作業員への注意喚起やICT技術による接触防止システムの普及推進。旋回時に加えて「前進」や「後進」時の接触防止対策も重要である。特に、前方はオペレータの視認任せで油断する傾向にある。
- 立入禁止措置が実質的に困難な場合は、**合図誘導者の配置**を徹底する
- 作業員と重機オペレーターとのコミュニケーション(声掛け)が重要

墜落事故のデータ分析(平成27～令和元年度SASデータより)

墜落事故の場所別発生割合(令和元年度)



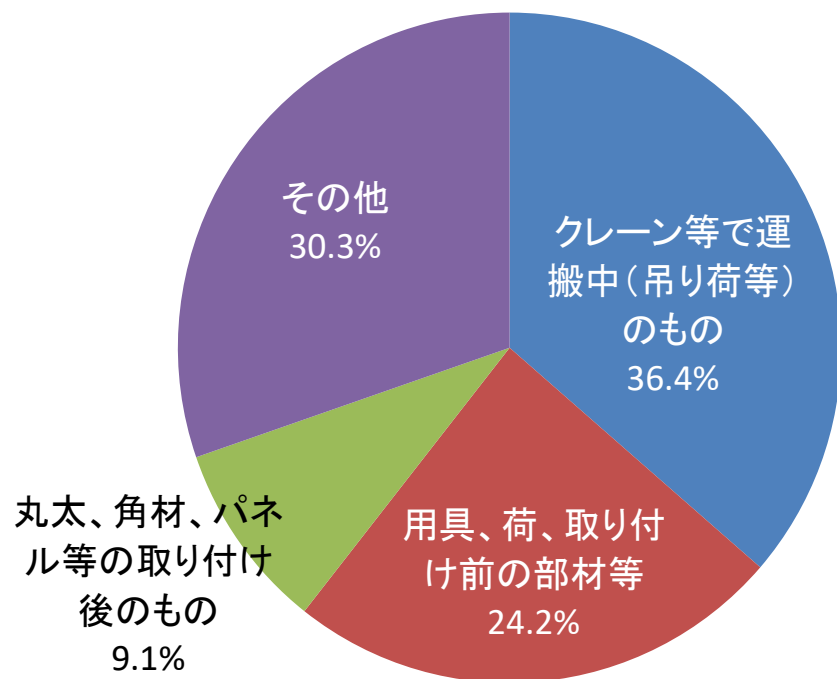
足場からの墜落事故時の保護具使用状況(令和元年度)



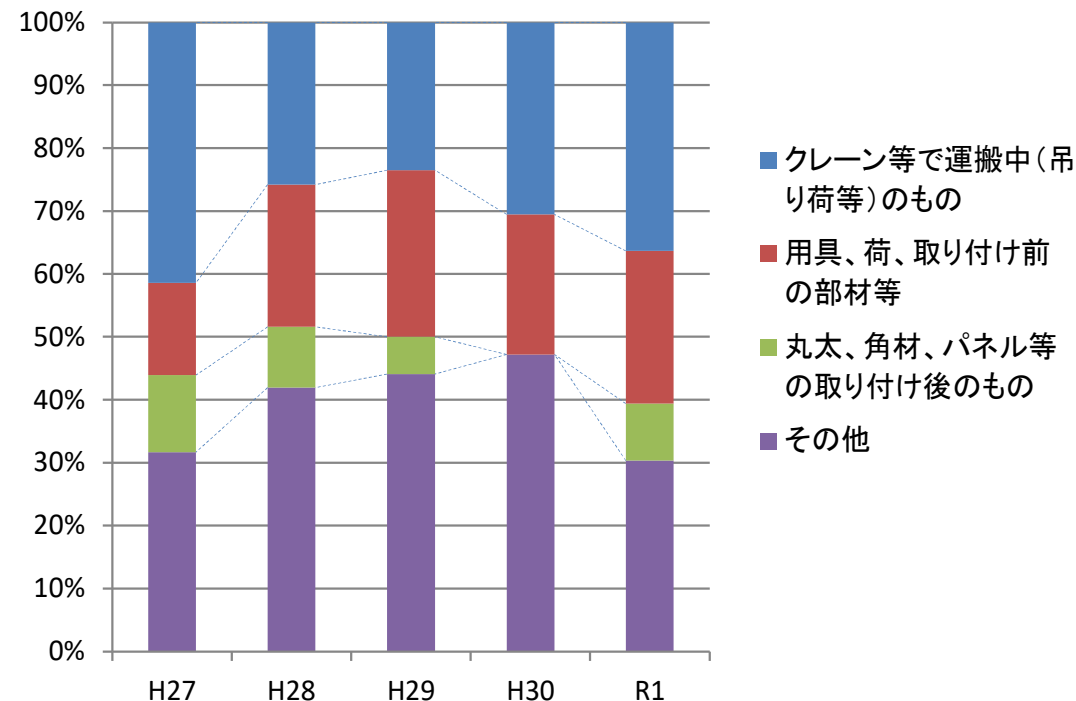
[墜落事故の場所別発生割合の内訳]

- 最も多いのは「足場から」であり、次に「梯子から」「窓、階段、開口部、床の端から」「ガケ、斜面から」の順番が多い。(R元年度)
- 「足場から」と「梯子から」「窓、階段、開口部、床の端から」を合わせると、**墜落事故の38.1%**を占めることになる。
- 「足場から」の墜落事故の保護具使用状況は、**「安全帯を装着したが未使用」が60%**であり、安全帯を正しく使用していれば防げた事故が多い
- 「足場から」の墜落事故の高さ区分では、0～2m未満が21.4%、2～5m未満が28.6%、5～10m未満が30.8%である。(グラフなし)

事故種類別の事故発生割合(令和元年度)



事故種類別の事故発生割合の推移(平成27～令和元年度)

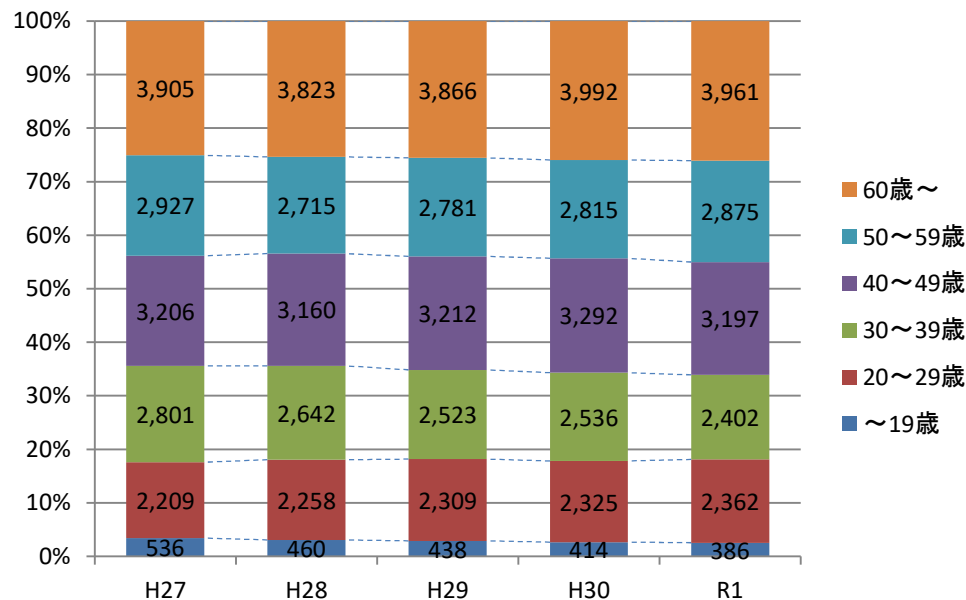


[飛来・落下事故の内訳]

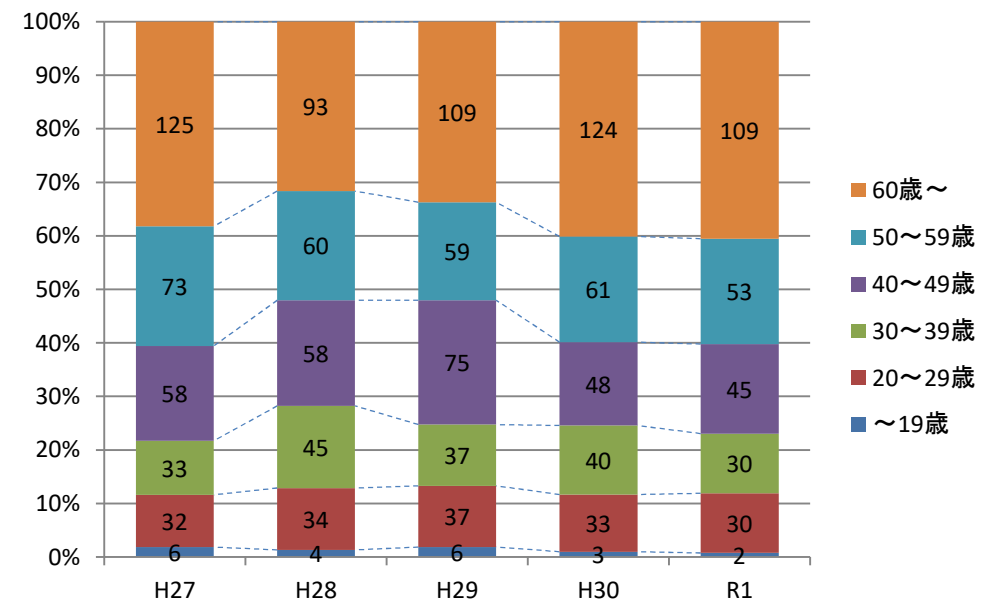
- 「クレーン等で運搬中(吊り荷等)のもの」が**36.4%**と最も多くを占める
- 「用具、荷、取り付け前の部材等」が**24.2%**と次に多い
- クレーン等で運搬中(吊り荷等)の間接的な原因として、「吊り荷の下に入る」「上下作業を行っている」「吊り荷が動揺する」「玉掛け作業時」などが想定される。

年齢別の死傷者数の推移(平成27～令和元年)

建設業における年齢階層別死傷者数の推移



建設業における年齢階層別死亡者数の推移



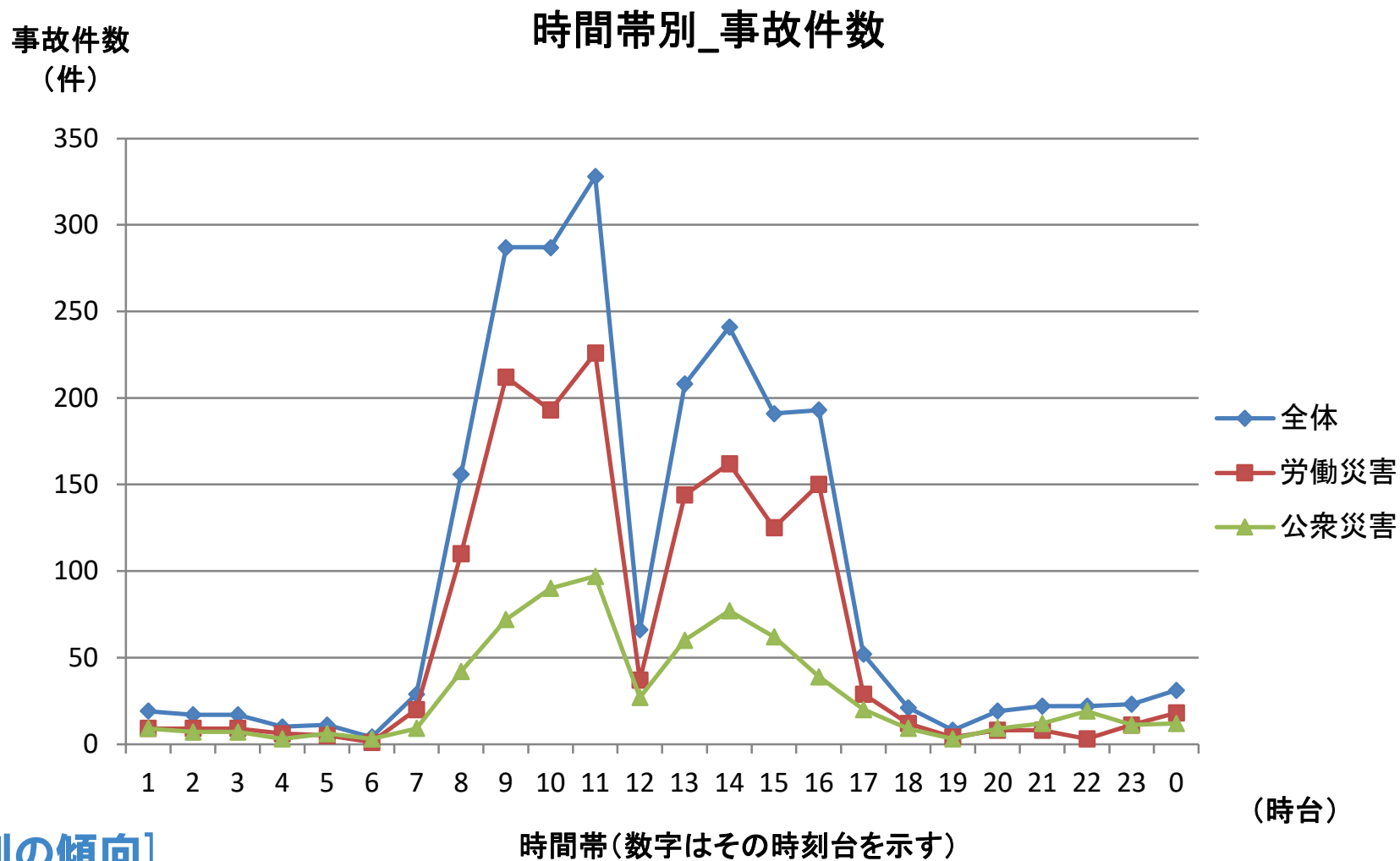
[出典:厚生労働省 労働災害統計「労働者死傷病報告」による死傷災害発生状況(平成27～令和元年 確定値)]

○ 過去5年間の年齢別の死傷者数及び死亡者数の推移は以下の通りである

- ・ 死傷者数の最も多いのは60歳以上である。
- ・ 10代の死傷者の割合は、就業者数の減少の影響もあるが、近年減少傾向を示している
- ・ 死亡者数は年度により異なるが、最も割合が多いのは60歳以上であり、次いで50歳代、40歳代、30歳代の順である



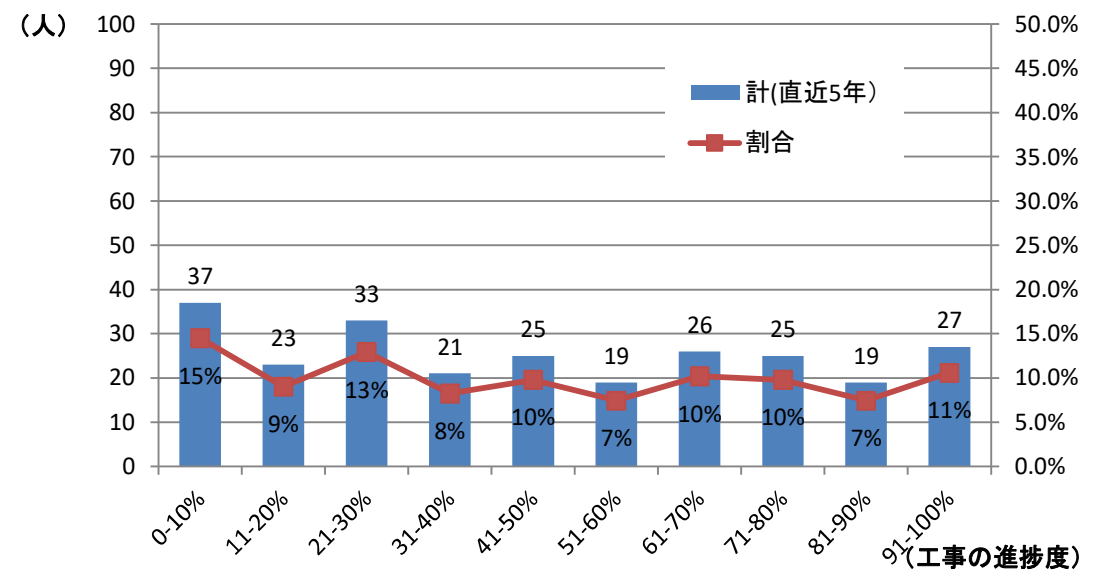
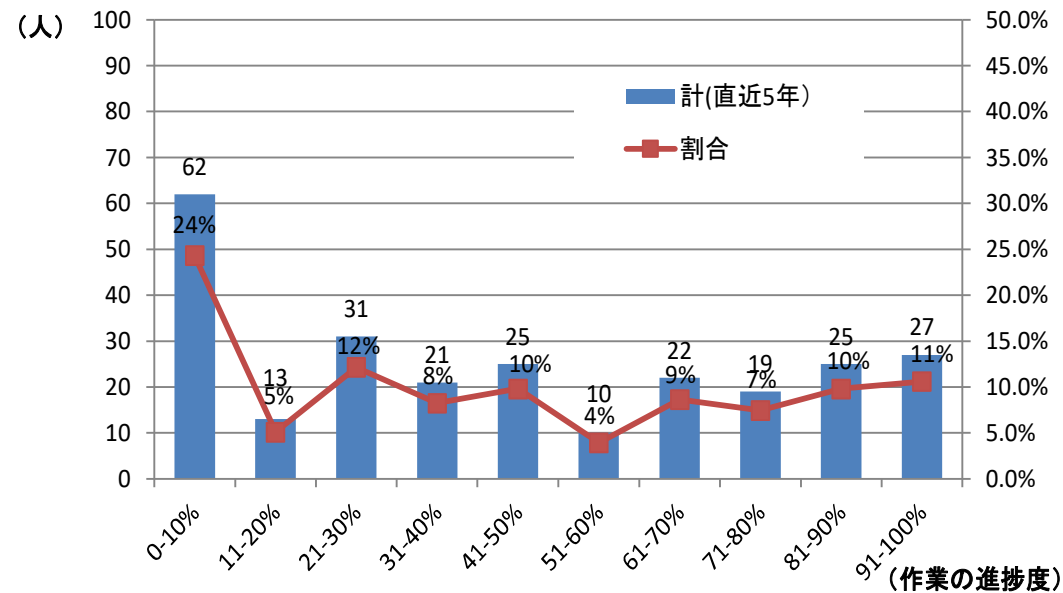
○ 一般には年齢が高いと経験が豊富だが体力や俊敏性の衰えが懸念されるため、現場の安全管理体制を充実させ事故を防止する必要がある



[時間帯別の傾向]

- 午前、特に11時台に事故発生のパークが出現し、午後は14時台に多くなる
- 上記の傾向は労働災害、公衆災害に共通している
- 夜間作業では、公衆災害で22時に小さなパークが発生する傾向がある

工事・作業進捗度別の事故データ分析(平成27～令和元年度SASデータより)



作業進捗度別の事故について(平成27～令和元年度)

工事進捗度別の事故について(平成27～令和元年度)

【工事・作業進捗度別の傾向】

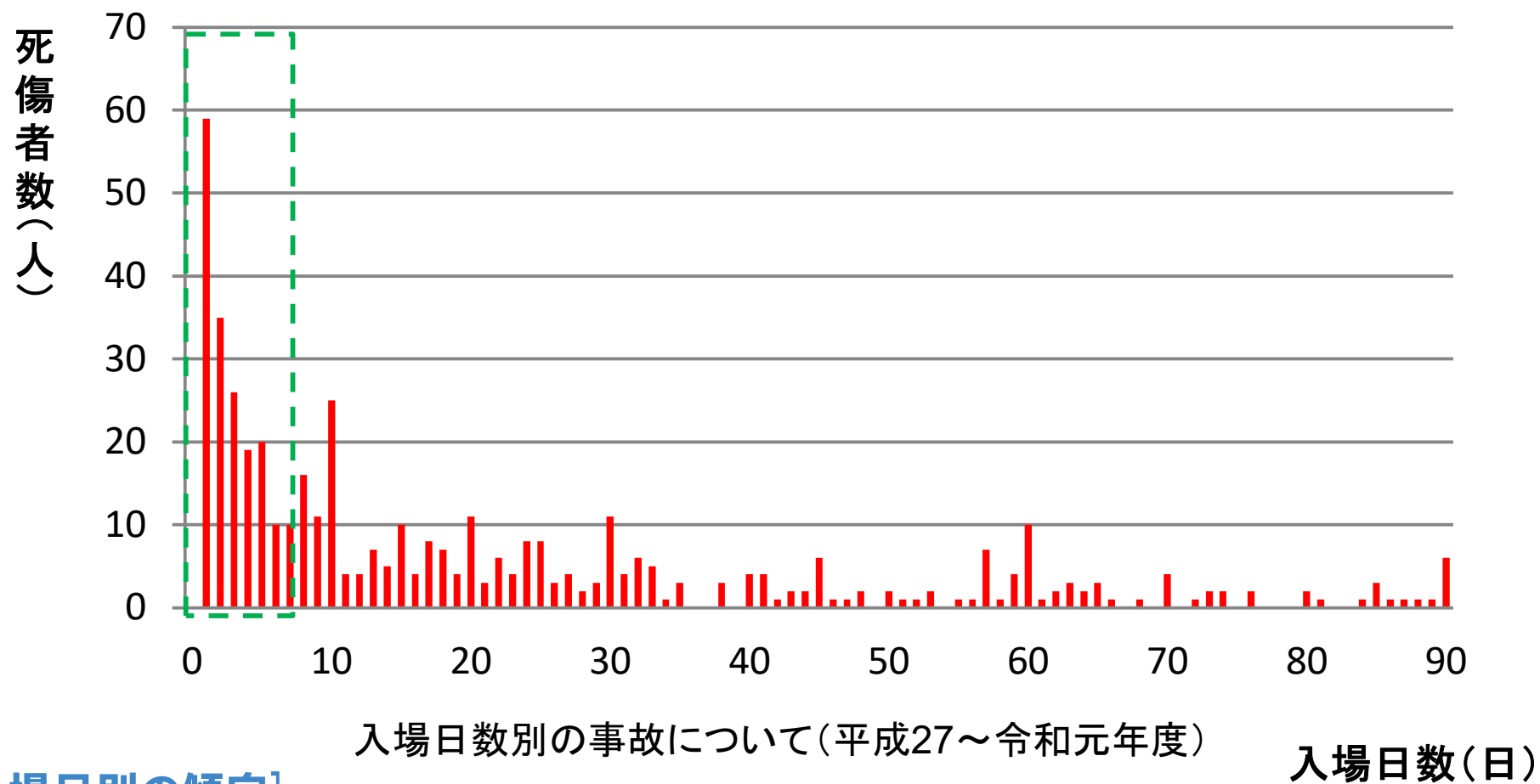
【作業進捗度別事故件数】

○ 作業初期段階(～10%)における事故件数が全体の24%を占めており、飛びぬけて多い

【工事の進捗度別事故件数】

○ 工期の着手時(～10%)及び工期末(91～100%)における事故件数が全体件数の約26%を占めている

入場日別の事故データ分析(平成27～令和元年度SASデータより)



[入場日別の傾向]

- 入場1週間で、全体の1/3の事故が発生
- 特に初日の被災が突出している